

# 薬剤師、管理栄養士、事務による 三者協働訪問事業

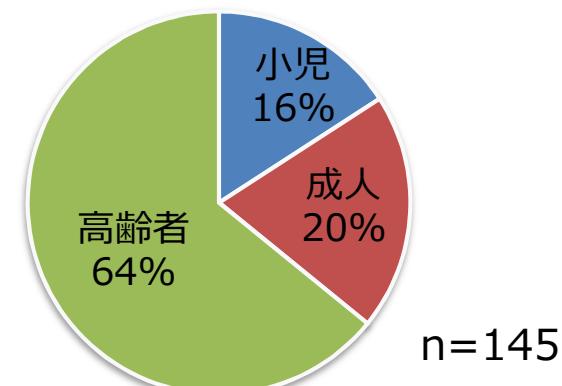
株式会社 薬正堂（沖縄県）

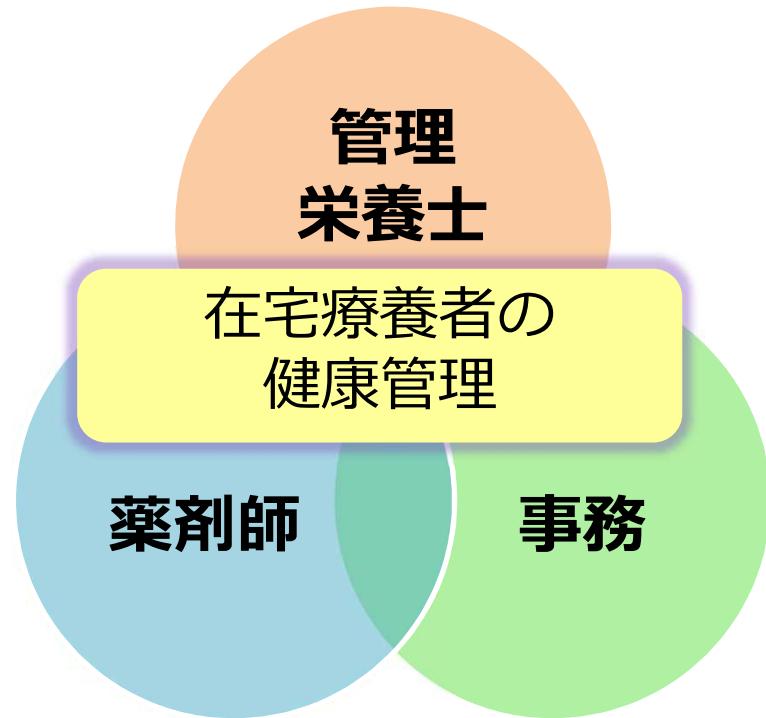
- 沖縄県内に39店舗の「すこやか薬局」を有する。
- 在宅・施設訪問の専門部署を2か所設置（うるま市・宜野湾市）
- 本島中南部を中心に145件※の訪問薬剤管理を担う。

【※令和元年8月現在】



- 訪問薬剤管理指導内訳※
- 小児(15歳未満) 23件
- 成人(15~64歳) 29件
- 高齢者(65歳以上)93件





- 管理栄養士・薬剤師・事務による、三者協働の在宅・施設訪問事業。
- 各職種が専門性を活かし連携することで、効率の良い訪問業務が可能となっている。
- 平成28年から管理栄養士の同行を開始、減薬や低栄養改善等の実績がある。

## ■事業の経緯

平成21年 薬剤師、事務による訪問薬剤管理指導を開始。

平成28年 管理栄養士の訪問同行開始。無料で栄養介入。

※調剤薬局の管理栄養士による訪問業務は医療・介護保険料の算定不可。

平成31年4月 訪問栄養指導の有料化（患者、家族の実費負担）開始。

## 薬剤師

- 健康状態、副作用症状等の確認
- 処方内容や剤形等の提案
- 残薬調整      ● 服薬指導
- 麻薬処方時の24時間対応



## 事務

- 薬のセット、残薬確認※薬剤師最終チェック
- 訪問スケジュール管理
- 契約書等書類管理
- レセプト請求



## 管理栄養士

- 摂取量等の栄養評価
- 栄養、食事指導
- 調理、買い物等の実技指導
- 経腸栄養剤、輸液等のプラン提案



■男児 ■主病: 脊髄髄膜瘤  
■身体所見: 気管挿管、人口肛門造設 経鼻胃管栄養

薬 薬剤師

栄 管理栄養士



訪問薬剤管理開始。その後も入退院を繰り返す。

8カ月間の入院。

抗生素投与長期化により腸管使用困難となり、  
中心静脈栄養へ。

退院。便秘のため、  
薬剤にて排便コントロール。  
薬剤師より栄養士へ情報共有。

栄 水溶性食物纖維の投  
与を主治医へ提案、採用  
となる。

投与後数日で排ガス、自然排便あり。

滴剤型緩下剤、浣腸を中斷。

3か月後、酸化マグネシウムも中止。

**合計3剤の減薬に。**

## 症例②

作成時点: 令和元年8月

■80代女性 ■主病: パーキンソン病  
■ADL: 全介助

薬 薬剤師

栄 管理栄養士

数年かけて経口摂取不良、体重減少。  
訪問看護より管理栄養士介入依頼。

XX年  
12月

栄 訪問時、薬剤管理の必要性をケアマネージャーへ提案。

薬

服用時点の変更、薬剤增量提案  
⇒無動症状が改善し安定した摂食が可能に。

栄

嚥下機能に応じた食形態の調整、および調理。

翌年  
4月

徐々に摂取量が増量。  
(909kcal/日⇒1000kcal/日)  
**栄養状態が改善した。**

	介入前	4カ月後
アルブミン(g/dl)	3.2	3.6
ヘモグロビン(g/dl)	9.6	11.7
体重(kg)	33.1	33.6

●薬剤師が構築した他医療機関、介護事業所とのネットワークを活用し、新規参入した管理栄養士も多職種連携がスムーズ。

## 他事業所との信頼関係

●情報共有により、広い視野で地域住民の健康に貢献。

## 薬と栄養の連携

### 「地域に根差した、顔の見える管理栄養士」

●複数店舗を有する為、「**店舗の数だけ地域に窓口**」があり、少数の管理栄養士でも社内連携により地域のニーズを収集可能。

## グループ企業の利点

●創造途中の新しい職域だからこそ、**地域に出向き、さまざまなニーズに対応**が可能。

## フットワークの軽さ